

**「民営化2年前入社
「今からが面白い」**

矢田さんの実家の前には線路が通っていました。小さいころ列車を見ていたら、子ども心に「この先にあるどこかに行きたい」と旅心を抱いたそうです。その心に誘われるようになつたのは、国鉄に入社したのは、民営化してJRになる2年前。経営状況が厳しい時期でも、「だからこそ、これから面白くなる」と捉えていました。

入社して30年超となる現在までで、最も長く働いたのは営業や販売促進などの部署。通勤・通学や買い物などで地元の人に列車を利用してもううのは鉄道事業の基本。しかし全国に先駆け少子高齢化が進む四国では、その需要だけではなく、四国外から人を誘致する「観光」での利用者増が不可欠でした。そのため、明らかに、JR四国では、

心に残るのは、JR西日本岡山支社と共に瀬戸大橋線開業15周年の記念行事。窓にガラスの入っていないトロッコ列車を海上で走らせ、香川・岡山両県知事が出席されて記念式典を行いました。両県に伝わる桃太郎伝説にちなんだクイズラリーを行い、ミニSLを走らせるイベントなども企画運営しながら、「鉄道は移動の手段だけではなく、その地域を楽しむための目的にもなる」という意識が高まりました」と矢田さん。

その後も地域と鉄道が一体となつてお食事と沿線地域のあたなかなもてなしが人気となっていきます。平成29年春には多度津と大歩危の間を走りながら自然や歴史を感じる「四国まんなか千年以来、社内のメンバーと共に携わりました。JR四国では、

「四国を元気に」「気持ちが最も重要なミーティングを行いつつ、JR四国に欲しい人材について聞きました。

「弊社は四国に根差した会社です。まずは四国を元気にしたい」という気持ちが第一です。その上で、自分で考えて行動する人に来ていただきたいですね。例えば、鉄道に必須の安全管理を行う時、マニュアルに沿って行動するのは勿論のこと、その道理を理解してほしい。道理が分かると、非常時でも適切に行行動できるのです」。

さらに大学時代も社会人になってからも、人間関係を大切にしてほしいと言います。

「実は私は、香川大学法学部の1期生です。新設学部



香川大学の人の繋がりには非常に多く助けられたという。



15周年のイベントに合わせて制作したパンフレット。

鉄道は、地域とともに発展します

「四国を元気に」の気持ちが最も重要なミーティング

で学生が少なかつたこともあり、大学時代は友人にも先生にもとても親しくしていただき、充実していました。

社会人になってからは、様々な事業で香川大学の先輩後輩に助けていただいています。

四国の駅弁選手権というイベントを担当した時も、先輩

にご協力ををお願いしたら

快く引き受けてくださいました」。

社内でも剣道部、ヨット部、

野球部の部長を務め、勤務

時間外でも社員同士のコミュニケーションを大切にする

矢田さん。「仕事は周りの人

に助けられながら進みます。

人と人の繋がりは宝物です

という言葉には、地域や仲間

を愛する心が溢れています。



四国旅客鉄道株式会社
常務取締役 総務部長
矢田 栄一

Eiichi Yata

やた えいいち

昭和60年	香川大学法医学部卒業
昭和60年	日本国有鉄道入社
昭和62年	四国旅客鉄道株式会社 営業部販売課
平成22年	四国旅客鉄道株式会社 事業開発部長
平成24年	四国旅客鉄道株式会社 鉄道事業本部営業部長
平成25年	四国旅客鉄道株式会社 取締役鉄道事業本部営業部長
平成27年	四国旅客鉄道株式会社 取締役財務部長
平成28年	四国旅客鉄道株式会社 常務取締役総務部長

四国旅客鉄道株式会社 香川県高松市浜ノ町8-33